不退転

第 ３８ 号
東江中学校
校長　神元 勉

公益財団法人エイズ予防財団
Japan Foundation for AIDS Prevention

■世界エイズデーとは

世界的レベルでのエイズまん延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消を目的に、世界保健機関（WHO）が、1988年に制定したもので、毎年12月1日 "World AIDS Day"(世界エイズデー)を中心に、世界各国でエイズに関する啓発活動が行われています。

我が国としても、その趣旨に賛同し、毎年12月1日を中心にエイズに関する正しい知識等についての啓発活動を推進しており、全国各地で様々な「世界エイズデー」イベントが実施されています。

12月1日は 世界エイズデー

"レッドリボン（赤いリボン）"は、古くからヨーロッパに伝承される風習のひとつで、もともと病気や事故で人生を全うできなかった人々への追悼の気持ちを表すものでした。

この"レッドリボン"がエイズのために使われ始めたのは、アメリカでエイズが社会的な問題となってきた１９９０年ごろのことです。このころ、演劇や音楽などで活動するニューヨークのアーティストたちにもエイズがひろがり、エイズで死亡する人々が増えていきました。

そうした仲間たちに対する追悼の気持ちとエイズに苦しむ人々への理解と支援の意思を示すため、"赤いリボン"をシンボルにした運動が始まりました。

この運動は、その考えに共感した人々によって国境を越えた世界的な運動として発展し、ＵＮＡＩＤＳ（国連合同エイズ計画）のシンボルマークにも採用されています。

レッドリボンは、あなたがエイズに関して偏見をもっていない、エイズと共に生きる人々を差別しないというメッセージです。

このレッドリボンの意味を知り、レッドリボンを身につけることによって、エイズのことをみんなで考えましょう。

エイズを考える学習

世界エイズデーに合わせて、本校でも、各学級または、学年単位で「エイズを考える学習」を予定しています。

①エイズ・ハンセン病について、正しい知識や新しい情報を知る。
②エイズや病気で苦しんでいる人々に、自分たちに何ができるかを考える。
③病気の人々への思いやりの心を育み、助け合って生きる必要性を理解する。

をねらいに、沖縄の児童生徒、学生らがハンセン病とエイズをテーマに全国で公演する人権劇「光の扉を開けて」を鑑賞し、ハンセン病やエイズについて、深く考える機会とします。

師走（しわす）とは、

陰暦12月の異称。語源については、この月になると、家々で師（僧）を迎えて読経などの仏事を行うため、師が東西に忙しく走り回るため、「師馳(しは)せ月」といったのを誤ったものだとか、四時の果てる月だから「しはつ（四極）月」といったのが、「つ」と「す」の音通(おんつう)によって「しはす」となったのだとかの説が伝わる。

このことばのもつ語感が、年の暮れの人事往来の慌ただしさと一致するためか、陽暦12月の異称としても親しまれ、習慣的に用いられている。［宇田敏彦］

日本大百科全書(ニッポニカ)の解説

本日は、エイズに対する正しい理解を意思表示するため、全生徒・職員が胸にレッドリボンをつけ、学校生活を過ごします。

その後、帰りの会で回収したリボンをミニツリーに飾り、25日(金)まで、教室で保管します。